

特別寄稿

Apa & siapa

日本の言語だけでは
十分でない

オキ・ディタ・アプリアント
(大学院博士後期課程に在籍)

おかげさまで、また日本に来ることができました。去る 2005 年から私はこの国の言葉を学んできたのです。そもそも日本語を勉強するきっかけとなったのは、神奈川県の高校バスケットボール部を題材にした「スラムダンク」という日本のアニメに魅了されたからです。たまたま私は自分の通う高校で課外活動にバスケットボールを取っていました。そして、たまたまインドネシアの民放テレビでそのアニメ放映を見たのです。結局、アニメにはまり込んだのが、私を日本へ行きたい気持ちにさせ、その第一歩として日本語を学ぶ決心をしたわけです。

最初の日本留学は 2009 年でした。もっとも行き先は神奈川ではなく、千葉でした。大学で日本語の勉強を続けようと決めていたのですが、とにかく 1 年間、日本で学ぶ機会が得られたのです。日本語と日本文化を座学で学ぶ以外に、じかに日本に触れるため、そこでよさこい踊りチームの 1 つに参加しました。年齢の異なる多くの人と友達になれ、自身「千よ連 北天魁」というチームに所属。たくさんの祭りに出て、踊りを楽しみました。(写真中央㊤)

2010 年に日本からインドネシアに帰国すると、学部卒と同等の資格を得て、母校から日本語教師のオファーをいただきました。即了承し、それ以来正式に日本語教師となりました。日本語を教えるだけでは十分ではないと思い、学内でよさこいチームを結成することにしました。私たちは、よさこい踊りのフェスティバルを開催、日本に興味があるとかないとかにかかわらず、広くインドネシアの人々の間でよさこい踊りが知られ、好まれるように努めました。(写真中央㊦、スラバヤで筆者の主宰するチームの踊り子と)

2013 年に再度、日本で学ぶための奨学金が得られま



した。修士課程のプログラムで、行き先は千葉でも神奈川でもなく大阪でした。当初私は千葉に戻って、よさこいチームに復帰するつもりでした。けれども、日本で何か新しい体験にチャレンジするには、大阪も悪くないなあと思いました。

千葉の時と違って、大阪ではインドネシア文化の紹介に力を入れることにしました。インドネシア留学生協会大阪奈良支部の支部長(2014-15年)に選ばれた私は、インドネシア伝統芸術公演の開催に取り組みました。日本の皆さんにインドネシアの文化を紹介するイベントです。立案する一方で、実際に舞台に立ちました。ラーマヤナ物語のハスマンに扮し、舞台を展開させる重要な役をこなすこともありました。(タイトル㊦の写真)



日本には学ぶためにやってきました。それは間違いありません。以前、芥川龍之介について研究していました。今回は修士・博士課程で、日本語会話における相づち・短い応答というテーマで研究しています。しかし、勉強や研究だけでは十分ではないようです。私は日本の社会に溶け込んでいくことが必要だと感じています。よさこいチームに加わったり、日本の社会にインドネシアの文化を紹介してインドネシアを知ってもらったりすることです。私はこうした行動が日本への愛情を深め、同様にインドネシアに対する日本社会の親愛の情を増すことになる、そのように期待しています。

日本語は別にして、もっといろいろ経験してみたいという私の欲求は、とどまるどころを知りません。最近も USJ で週末アルバイトを体験しました。私は新たな体験を待ち構えています。冒険であってもやれそうならなんでも挑むつもりです。